

KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書（シラバス）

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。（連絡先：虎ノ門事務室【メールまたは電話】）
 ※ 授業中の食事は控えてください。携帯電話はマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科目名	科目コード	単位数	開講期	VOD閲覧
AIによるデータ活用実務特論 2	Z 153	1 単位	4 学期	
Data Science & AI Advanced Class II				
科目分野		課程領域		
技術経営		イノベーションマネジメント共通科目		
担当教員名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー		
槌野 浩	-	メールポイントにて随時		

関連している科目（履修推奨科目）		
AIによるデータ活用要論（プレ講義）	AIによるデータ活用特論	AIによるデータ活用実務特論 1

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

自分で定めたユースケースにおいて、AIによるビジネス価値を創造できるかを、自分でデータを理解し、分析シナリオを決めて、評価、適用までを実践的に実施することでそのKnow Howや考慮点を身に付けることを目標とする。アプローチは、“AIによるデータ活用実務特論1”で学んだ「データ主導型分析アプローチを実践適用する。

授業は、受講生が持ち寄った様々な業界ビジネスケース実例の中でのデータの取り扱いを学んで、それに準じて、自らのユースケースに適用していく演習を中心に進んでいく。

- ① AIシステムの特徴を、単なるITシステムと比較して把握し、その特徴を生かすユースケースを自分の身の回りの実務の中から創出できる。（ビジネスケース策定）
- ② 自ら選んだユースケースにおけるビジネス課題を整理し、それをデータ分析によって解決できる可能性のある想定シナリオを定義できる。（新ビジネスモデルによる効果予測）
- ③ 定義したデータ分析シナリオにおいて、AIシステムをAIらしく価値あるものにするのに必要な知識データや教師データになるデータ項目や文献を、自社及び公開された業界データベースから見繕うことができる。また、現実自らのユースケースでの知識データ・教師データの収集計画を策定できる。（データの理解）
- ④ データの分析を実施する前に行うべきデータの加工や選定について、AIが特徴を見つけやすいデータへの変換について、自らのケースにおいて考える。（データの準備）
- ⑤ 準備できたデータを活用して、予測、分類モデルの精度を実感した上で、さらなるモデルの精度向上のための試作を立案できる。（モデル策定&評価）
- ⑥ アフターコロナのDXを視野に、自らの提案をビジネスモデルの新規性の観点で見直す。（DX/プラットフォームの視点でのソリューションの玉成）
- ⑦ ①から⑥で検討してきた内容を、自らのAIシステム企画提案書として取りまとめ、2022年度に募集されている自社の上位役員のスポンサーシップや官公庁企業支援補助金、

クラウドファンディング募集と言ったスポンサーシップを意識した形にまとめる。

到達（修得）目標

A Iシステムを持続可能にするデータ活用の勘所が理解でき、業務改革を、ビッグデータ利活用の視点で企画、具現化できるための基本的な知識を身に付け、自らのAI企画を、自社上部組織、官公庁やスポンサー企業候補のコンソーシアムに提案できる。

受講対象者

イノベーションマネジメント専攻の全受講生・科目等履修生 及び 経営者・企画職・IT部門等、ビジネスでAIを活用したいと考えているすべての人。但し、自らのアイデアで、公共の補助金や企業内資金、クラウドファンディングなどの予算を取りにいっても、そのアイデアを実現しようというアントレプレナーシップを持てる方

履修上の注意事項やアドバイス

- ※ 欠席が、2コマ（90分＝1コマ）を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。
- ※ 担当する教員は実務家教員とする。
- ※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標

知識領域（Y軸）		ヒューマンパワー（Z軸）		思考プロセス（X軸）	
Y1： 基盤法令・テクノロジー	○	Z1： 問題発見力	○	X1： 企画	○
Y2： 応用法令・実務・テクノロジー	○	Z2： 独創力	○	X2： 構想	○
Y3： グローバル法令・実務	○	Z3： 問題解決力	○	X3： 調査・分析	○
Y4： マネジメント	○	Z4： プレゼンテーション力	○	X4： 設計・開発	○
Y5： 戦略立案	○	Z5： 変革推進力	○	X5： 変革	○
Y6： 標準化	○	Z6： コミュニケーション力	○	X6： 導入・運用	○
		Z7： リーダーシップ力	○	X7： 評価・検証	○
		Z8： ネゴシエーション力	○	X8： リーガルマインド	○
		Z9： オーナーシップ力	○	X9： ライフサイクル	○

ブラクティカム

イベント / ケース	教育技法	マテリアル / ツール
1 ユースケース選定	演習形式	
2 チャットボット会話設計	グループワーク	
3 アンケート設計&改善	グループワーク	
4 画像データ分類演習	グループワーク	
5 AI精度評価と改善方針策定	演習形式	
6 プロジェクト支援補助金応募資料作成&Presentation	演習形式	

評価の方法

(総合評価項目と割合)			評価の要点
学習姿勢	授業参加積極性	10%	各講義での演習発表や最終レポート提出物を元に、左記重みにて総合的に評価を行う
各授業内演習	各宿題提出	20%	
最終提案書	ビジネスケース	20%	
最終提案書	データ活用・準備	20%	
最終提案書	ビジネスモデル	30%	
合計		100%	

テキスト・参考図書など					備考		
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください							
テキスト (購入が必要)	(授業用資料は配布)						
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	プラットフォーム革命 (英治出版) アレックス・モサド アフターコロナ見えてきた7つのメガトレンド (日経BPムック)						
参 考 U R L							
適宜紹介予定							
コマ	学習内容				事前準備・課題	担当者	時間
1	主に講義 1. 統計データを使った関心事紹介 (宿題ベースでの演習) 2. AIが生きるビジネスユースケース選定の前提知識 3. AIソリューションのROI想定の考え方 4. AIソリューションの資金調達 (公募例)				演習準備 オープンデータによる自己紹介 コースで取り組む自分のビジネスユースケース (実戦活用Iのワークシートをより細分化したユースケースワークシート準備)	槌野	90分
	イベント	(自己紹介) 1. データ活用した自己紹介 2. ご自身のテーマ設定	Output	ビジネスユースケース案 (素案)			
2	主に発表とチーム評価 1. 自分自身のAIのユースケースを策定してTeam発表&Feedback ユースケース、適用ソリューション、活用するデータ、ビジネス価値、ROI 2. ネットで探せる統計データについて					槌野	90分
	イベント	自らのAIユースケースと期待	Output	ビジネスユースケース案見直し要件			
3	講義と演習 1. データ活用の意義の変化 1) 人によるデータ分析 vs AIによるデータ活用 2) 非構造化データの分析、活用 3) ビッグデータの利活用プロセス 2. ビジネス課題へのデータ中心アプローチ Remind 3. 各自ケースのビジネス価値見通しとデータ活用シナリオ発表前半(発表)				演習準備 インプットになる構造化データ、非構造化必要データ項目の準備、 AI分析シナリオ想定 (予測、分類)	槌野	90分
	イベント	ビジネス価値見通し発表	Output	個々人のビジネスユースケース定義			
4	講義と演習 1. 各自ケースのビジネス価値見通しとデータ活用シナリオ発表前半(発表) 2. データ加工の実際 (欠測値、外れ値) 3. 非構造化データの活用する事例 4. データ分析(AIモデル) から ビジネス価値 (ビジネスモデル) への紐付け 5. AI事業計画書のキーポイント (事業目的、現状課題/解決策、データ利活用による差、ROI) 6. 資金の募集要項例 7. 自社データ項目と外部BigData項目の選定と分析シナリオ					槌野	90分
	イベント	データ分析や分類シナリオ発表	Output	活用したいデータ項目リスト			
5	主に講義 事業計画書の策定 1. ビジネスモデルレビュー参照事例 2. ビジネスモデル精査 3. ICT, AI, デジタル・トランスフォーメーションと ビジネスモデルの関係 4. 業務アプリにとっての価値最大化のためのDXメガトレンド				演習準備 ビジネスモデル再検討 事業計画書まとめ材料収集	槌野	90分
	イベント	1. 想定応募FUND説明 2. 新事業の利益想定額	Output	ビジネスROI想定			
6	主に発表 1. スポンサー・補助金・Fundの選定候補と理由の発表 2. 事業計画採用に要求される業務価値、必要なデータ量 & 分析精度 3. 必要費用・投資効果の定量化概算例					槌野	90分
	イベント	新事業の独自性、新規性の訴求力検討	Output	事業計画書目次Fix			
7	人数 * (説明15-20分 + 各人 (自分以外の) Q&A・審査10-15分)				演習準備 最終事業計画書発表	槌野	90分
	イベント	各人AI事業提案発表	Output	各人の実現性相互評価			
8	人数 * (説明15-20分 + 各人 (自分以外の) Q&A・審査10-15分)					槌野	90分
	イベント	各人AI事業提案発表	Output	各人の実現性相互評価			
※ 講義日程は、学事ポータル内の講義日程表をご参照ください。							
※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。							
※ 講義収録は、特別講師を招く場合など、内容によっては収録できない場合があります。							